

地歴公民(日本史)

<全体分析>

試験時間 90分

解答形式

論述式と記述式の併用だが、論述式が中心。論述式の解答分量は、解答用紙の行数により指定している。

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

昨年と同様大問4問であった。論述問題は20問から24問、解答行数は36行から42行に増加した。一方、記述問題は、7問から4問に減少した。

難易(易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

設問間での難易度の差はあるが、全体には昨年よりやや難化した。

出題の特徴

大問4問構成、問題Ⅰは古代・中世、問題Ⅱは中世、問題Ⅲは近世、問題Ⅳは近現代であった。例年史料や図版・グラフなどの資料を利用した問題が出題されており、今年もすべての大問で史料や図版を使った問題が出題され、半数以上が資料の読み取り問題であった。

入試改革を踏まえた出題

問題Ⅲ問3で高札設置者の立場でその内容を選択させ、その理由を説明させる問題が出題された。

その他トピックス(入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

直前講習名大日本史テスト第2講問題Ⅲ問1が、問題Ⅳ問2に的中した。

<大問分析>

| 番号 | 出題形式 | 出題分野・テーマ | コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど) | 難易度 |
|----|------|---------------|---|-----|
| Ⅰ | 論述式 | 古代～中世における「辺境」 | 問1: 続縄文文化や擦文文化など蝦夷地の歴史への知識が問われた。 | 標準 |
| | | | 問2: 螺鈿の技法を説明する難問。 | やや難 |
| | | | 問3: 十三湊の役割を説明すれば良い。 | 標準 |
| | | | 問4: 史料1から戸は造り吏をおいているが、史料2から班田ができていないことを読み取りたい。 | やや難 |
| | | | 問5: 柵戸について説明する。 | やや難 |
| | | | 問6: 俘囚の利用について説明する。 | やや難 |
| Ⅱ | 論述式 | 中世の武家政権 | 問1: 平清盛を取り上げて論じる。 | 標準 |
| | | | 問2(1): 『吾妻鏡』について説明する問題。 | やや易 |
| | | | (2): 史料の「家人の儀を存ずる」「家人たるべからざるの由を存ずる」が読み取れたであろうか? | やや難 |
| | | | 問3: 「当所守護不入」の意味を読み取りたい。 | 難 |
| | | | 問4(1): 時代と服装から右側が倭寇だと気づきたい。 | やや易 |
| | | | (2): 問われている内容が理解しにくい。明が倭寇禁圧を日本に期待したことを述べたい。 | やや難 |

地歴公民 (日本史)

| | | | | |
|-----|------------|---------------|---|-------------------------------------|
| III | 記述式 論述式 | 近世の交通 | 問1：問6から決定できる。 問2：高札を読むには文字が読めなければならないことに気づきたい。 問3：口が武家諸法度の条文であることに気づきたい。 問4(1)(2)：下線部③から輸送がテーマであることを読み取り、陸上交通と水上交通の特徴を対比的に捉えて論じる。 問5：旅の資金調達の方法はやや難。 問6(1)(2)：「西洋諸国から激しい非難」からキリスト教禁止と気づきたい。 | 易 標準 標準 標準 標準 やや易 |
| IV | 記述式 論述式 | 近現代の社会運動・社会問題 | 問1：「食糧騒擾」が米騒動であることに気づきたい。 問2：原敬内閣の選挙法改正について論じる問題。 問3：物価高騰によって顕在化した問題として格差問題に気づきたい。 問4：総争議のうちほとんどが争議行為(ストライキ)をともなっていることを論じる。 問5：戦後直後からの沖縄の状況を説明する問題。 問6：史料の歌詞から挫折感を読み取る。 | 標準 やや易 やや難 やや難 標準 標準 |

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

全体的には標準的な論述問題が中心だが、相当な歴史的・応用力の必要な設問もあり、単純な歴史用語の暗記では対応できない。歴史的な背景や因果関係を意識した学習が必要である。また、テーマに対して行数の少ない設問も多いので、設問要求を確実に把握し、簡潔に文章化する表現力の養成も不可欠である。